平成17年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ズワイガニ

学名　*Chionoecetes opilio*

系群名　北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

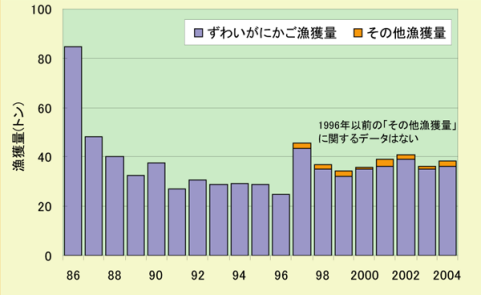
寿命:	不明（京都府沖では、13～15年と推定されている）
成熟開始年齢:	不明
産卵期・産卵場:	不明（本海域内における再生産の可能性が高い）
索餌期・索餌場:	不明、漁場は水深400m前後の海域
食性:	成体は主に甲殻類や二枚貝、クモヒトデ類、この他に魚類、イカ類、ゴカイ類、巻き貝、ツノガイ類など
捕食者:	不明

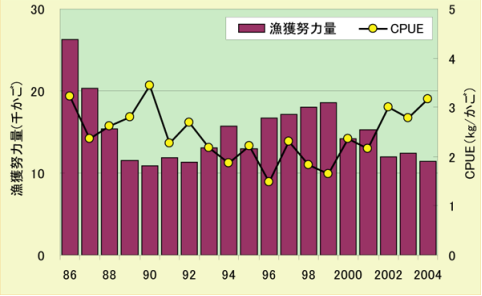
漁業の特徴

北海道西部海域でのズワイガニは、主にずわいがにかご漁業（知事許可漁業）で漁獲されている。現在、3隻がべにずわいがにかご漁業とずわいがにかご漁業の知事許可を得ており、11月1日～翌年4月30日のずわいがにかご漁業の操業期間中は、べにずわいがにかご漁業に併行してずわいがにかご漁業を行っている。甲幅10cm（省令は9cm）以上の雄のみの漁獲が認められており、漁具はべにずわいがにかご漁業と併せて6連、1,000カゴ以内を許可条件として、自主的な保護区が設定されている。

漁獲の動向

1986年度以降の北海道西部海域におけるズワイガニの漁獲量は、1990年度頃まで減少した後、1997～2003年度は30～40トンで比較的安定している。2004年度の漁獲量はかご漁業によるものが36トン、刺し網漁業による混獲が2トンであった。漁獲量は漁期年（7月～翌年6月）で集計した。



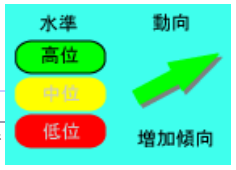


資源評価法

かにかご漁業の漁獲量とCPUEから資源の水準と動向を判断した。水準は、1986～2003年度のCPUE平均値を100とし、±20を中位、それ以下を低位、それ以上を高位として、2004年度のCPUEから判断した。動向については、2000～2004年度の過去5年間のCPUEの傾向から判断した。

資源状態

漁獲量は、1986年度以降減少傾向を示していたが、1990年度以降は30～40トンで安定して推移している。CPUEは、1999年度以降増加傾向を示している。資源の水準は、1986～2003年度までのCPUE平均値を100とすると、2004年度は131となったため、高位と判断した。動向は、過去5年間のCPUEの傾向から増加と判断した。



管理方策

許可隻数が限られ、甲長制限や保護区等の自主規制も行われていることから、この管理措置を継続しつつ、資源動向に合わせた漁獲を継続することで資源は維持できると判断される。2004年度の漁獲量（C2004）×γをABClimitとした。γは過去8年間のCPUEの増加傾向が2006年度まで継続すると仮定し、回帰直線上の2004年度と2006年度の比から1.1と算定した。資源が高水準にあることからABCtargetはABClimitと等しくした。今後、CPUEが高い水準で維持されているにも関わらず、冬季の漁況や魚価により努力量が減少し、それにより漁獲量が少なくなる場合には、ABCの算定に際して年度漁獲量に替わる情報を利用する必要が生じうる。

	2006年漁獲量	管理基準	管理の考え方	F値	漁獲割合	評価
ABClimit	42トン	1.1C2004	資源の動向に合わせた漁獲の継続	－	－	－

ABCtarget	42トン	1.0・1.1C2004	現在の漁獲圧が資源を危機的な状況に追い込む危険性は少ない	-	-	-

資源評価のまとめ

- 2004年度の漁獲量は、2003年度より若干増加
- 近年の漁獲努力量は減少、CPUEは増加傾向を示す
- かにかご漁業による漁獲量とCPUEから資源状態を評価

管理方策のまとめ

- 資源の動向に合わせた漁獲を継続することで資源を維持
- 許可条件・自主規制等の遵守による資源管理
- 資源管理の継続

資源評価は毎年更新されます。